

公開講座

ーいきいき生きるー

「発達障害と作業療法」

北山 淳

四條畷学園大学 リハビリテーション学部

1. はじめに

「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいいます。

また 発達障害といっても状態像は多様です。また、同じ診断名でも、子どもの個性や、発達の状況や年齢、置かれた環境などによって目に見える症状は異なります。さらに、発達障害があっても、その人ごとの人柄があります。障害があるということだけでひとくくりにするのは間違いでしょう。

一人一人のことをしっかり理解しようとするのが大切です。特に、自閉症を中核とする自閉症スペクトラムとも呼ばれる広汎性発達障害等の場合、その半数ほどは知的障害をもちません。そうした高機能では今まで一般的にとらえられていた障害というイメージとは一見異なるように見えます。しかし、幼少時からの一貫した指導がないと二次的な問題が大きくなり、知的な能力は高くとも社会適応は難しくなることがあります。発達障害の人たちの場合、問題となるリスクを減らしていく意味でも、彼らのよりよい人生を確かなものにする意味でも、早期からの専門的な療育や発達支援が必要です。

2. 発達障害の定義

自閉症の定義 <Autistic Disorder>

自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害であり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

高機能自閉症の定義 <High-Functioning Autism>

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との社会

的關係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。

また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

学習障害(LD)の定義 <Learning Disabilities>

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

注意欠陥/多動性障害(ADHD)の定義

<Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder>

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

※アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、

かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものである。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害に分類されるものである。

3. 発達障害児・者を理解するために

平成17年4月より発達障害者支援法に基づいた取り組みがスタートしています。

発達障害者支援法では、これまで制度の谷間におかれ

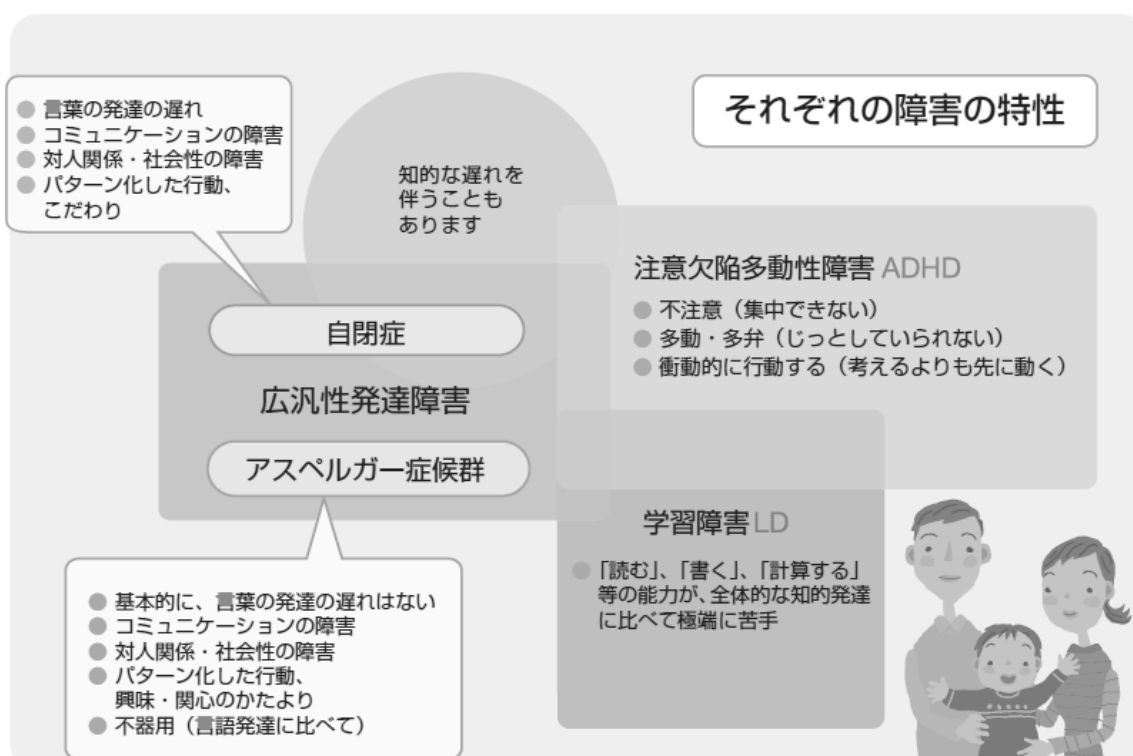


図1 発達障害の理解

ていて、必要な支援が届きにくい状態となっていた「発達障害」を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義し、支援の対象となりました。この法律は、「発達障害」のある人が、生まれてから年をとるまで、それぞれのライフステージ（年齢）にあった適切な支援を受けられる体制を整備するとともに、この障害が広く国民全体に理解されることを目指しています。

4. 例えばこのようなお子さんはいませんか？

【Aちゃんの例】

急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると不安になり動けなくなることがよくあります。そんな時、周りの人が促すと余計に不安が高まって突然大きな声を出してしまうことがあります。周りの人から、「どうしてそんなに不安になるのかわからないので、何をしたらよいかかわからない」と言われてしまいます。でも、よく知っている場所では一生懸命、活動に取り組むことができます。

【Bくんの例】

他の人と話している時に自分のことばかり話してしまったり、相手の人にはっきりと「もう終わりにしてください」と言われないと、止まらないことがよくあります。周りの人から、「相手の気持ちがわからない、自分勝手にわがままな子」と言われてしまいます。でも、大好きな電車のことになると、専門家顔負けの知識をもって、お友達に感心されます。

ここに示したのはあくまで一例であって、どんな能力に障害があるか、どの程度なのかは人によって様々です。子どもにも大人にもこれらの特徴をもつ人がいます。発達障害は障害の困難さも目立ちますが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見るとアンバランスな様子が理解されにくい障害です。そのため、上で紹介したような印象をもたれていることが多くあります。近年の調査では、発達障害の特徴をもつ人は稀な存在ではなく、身近にいることがわかってきました。発達障害の原因はまだよくわかっていませんが、現在では脳機能の障害と考えられていて、小さい頃からその症状が現れます。早い時期から周囲の理解が得られ、能力を伸ばすための療育等の必要な支援や環境の調整が行われることが大切です。

5. 作業療法士の関わり

ADHDをもつ子の学校生活. 中央法規, 2000.

通園施設に通われているお子さんに対しての個別セラピー, 就園, 就学しているお子さんの外来での個別セラピー, 普通学級に通われている, お子さんの対人コミュニケーションスキルトレーニングを目的とした小集団指導, 自宅へ出向きセラピーを行なう訪問リハと多岐に渡っています.

就園, 就学をしているお子さんに対してお子さん本人やご家族, 支援する保育士, 教師と連携を取り, 作業療法という専門的な立場からアドバイスを行ったりもします.

作業療法の対象疾患として自閉症, 軽度発達障害, 知的障害, 脳性麻痺, 重度心身障害などの方が対象になります. その他に, 遊びが広がりにくい, 人とうまく遊べないなどの心配のある方に対して, 検査や助言, 必要に応じて治療を行っています.

作業療法の流れについては, 多くは1歳6ヶ月, 3歳児健診などで言葉や運動の遅れを指摘され, 児童相談所より紹介されるケースや, ご家族から言葉の遅れや行動面, 運動発達についての心配があり, 作業療法を受けるケースがあります. また最近では, 幼稚園や保育園, 小学校などの担任の先生からお子さんについて心配があり相談に訪れる場合もあります.

評価・治療をすすめていく上で大事なこととして評価・治療時に本人・家族が困っていること, こうなるとほしいと望んでいることを聞き取っていき, 捉えること, その子が持っている障害特性を理解した上で児を捉えること, その年齢の正常発達のレベルを理解した上で児を捉えることが大切になってきます. これらを念頭に置き, 検査や行動・動作分析, 感覚面, 遊び, 対人面などの評価を行ないます.

最後に作業療法の対象となるお子さんが地域で, その子らしい生活を過ごしていくためには, そのお子さんを取り巻く家族や教育, 医療機関との連携, 協力が不可欠です.

参考文献

- 1) 内山登紀夫: 高機能自閉症アスペルガー症候群入門. 中央法規, 2002.
- 2) 榎原洋一: 特別支援教育のためのアスペルガー症候群の医学. 学研マーケティング, 2005.
- 3) リンダ・J. フィフナー: こうすればうまくいく